



白い息吹 歴史の風

ローマ古代遺跡における一東の大理石彫刻

2009年5月～10月

企画 コルサニーニスタジオ、伊日財団

後援 イタリア文化財省、ローマ県、日本大使館、日本文化会館

杭谷一東氏の大理石彫刻が30点、チェチリア・メテッラの墓廟、クインティリ家の邸宅、そしてマッシモ宮（ローマ国立博物館）にて、ローマで初めて展示されます。

一東氏の彫刻作品は、地上で生まれ天へと発信される形やイメージに生命を与えるという、芸術家と大理石の密接な関係から生まれます。この自然との密接な関係は、芸術家と素材という物質的な対話にとどまらず、杭谷作品の研究家であり評論家であるエンリコ・クリスポルティ教授が表現するように、「対話、歩み、接近を促す環境造形」を作成するのです。

古代ローマ人も同じようにこの素材「大理石」の使用に情熱を傾けました。そのローマ古代遺跡の幻想的な風景が広がるアッピア旧街道において、一東氏の作品が、芸術家と自然と全人類の対話に新しい形を与えます。そして、人間と自然の対話、和解、共存といった重要な価値を再び提示し、過去と未来をつなぐ橋となります。

クインティリ家の邸宅（アッピア旧街道） 大規模作品6点



唯心

高さ 3m
幅 1.9m
奥行 1.3m



天空の標

高さ 2.2m
幅 5m
奥行 2.2m



敬意

高さ 5m
幅 2m
奥行 2m



天地花

高さ 6.3m
幅 7m
奥行 6m



和舒門

高さ 3.5m
幅 2.2m
奥行 2.2m



曙風門

高さ 6.2m
幅 2.2m
奥行 4m

ローマ国立博物館 マッシモ宮 (ヴィッラ・ペレッティ広場)

小規模作品15点



太陽門



敬意

チェチリア・メテッラの墓廟 (アッピア旧街道)

中規模作品10点と一東氏のモニュメント作品「未来心の丘」のパネル。「未来心の丘」は、5千平方メートルにも及ぶ土地に、イタリアから15年以上かけて日本へ運ばれた3千トンのカラーラの大理石を使用して作られ、広島の新三寺内にあります。

「未来心の丘」原型



未来心の丘 写真
(広島 尾道 新三寺博物館)

